（明治[illegible]第三種郵便物認可）（日刊）月曜及祭日之翌日休刊　明治四十四年七月七日（金曜日）　第七百二十三號　（一）

京城新報

人の一生は重荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

明治四十四年 紀元二千五百七十一年
定價 本紙一枚金[illegible]錢 一ヶ月前金[illegible] 三ヶ月前金[illegible]
廣告料 [illegible]
發行兼編輯人　高木久太郎
印刷人　松久[illegible]
發行所　京城[illegible]　京城新報社
仁川支局
東京支局　東京市京橋區南佐柄木町七番地

史譚



臨終の奈破翁

山水道人

第二回

彼は今セント、ヘレナに在り！　セント、ヘレナや、もと絶海の一孤島、鳥も通はぬ荒寒の、しげきは寄する浪のみかは、荒るゝは彼が胸のみかは、風雨は和せず季に節無く、山野磽角五穀稔らず、瘴癘の氣深く鎖して、殆んど人の住ひすべき地とも覺ねず、されば古來島民の、皆てよく五十歳の齢を保ち得つるは無しと云ふ。

あゝ、生者必滅、會者定離、榮枯は桝の花の色、盛衰は秋の月の影、無常の人の名やいづて、喜怒哀樂四情の跡去りての後は泡沫の、生やそも何死や將た何、落つれば同じ谷川の、溶けて流るゝ暇も無き、香爐上の雪一點、一瞬の前有りと見つ、一瞬の後塵も留めず、想へば眞に如露如電、有爲轉變のうつゝ世に、幻の影憧れつ、顧れば淡き人の夢、夢の浮世の夢の人、所詮は夢と思ふも夢、夢を迷ひと言ふも夢、しばしの宿り假の世の、人生大夢の中に生れて、醉へばとて狂へばとて、定まる運は天なるを、天に順ふ人なるを、曾ては麾下百萬の兵を統べ、朝する群臣雲の如く、從ふ美妃は花にも似つ、紫綬金冠、民は仰いで威に眩じ、世はうの業を謳ひてし、彼ナポレオン皇帝も、盛運一度天に回るや、頽勢漸く軍に崩しつ、旗鼓衰亡の韻を傳へて、鐵蹄進まず、長劍鳴らず、凱歌再び聞ねずなりて、パリーの春の花は散り、秋風空しく城頭を吹いて、餘喘果敢なく衰殘の身は敵に囚はれ、こゝセント、ヘレナの孤島の夜は、更け行く空に月のみ冴ねつ！

ナポレオンの王宮――檻倉――をは茨木造りの、極めて粗野なる建物にて、室は僅かに只二個のみ、昨日は輪奐の美を鎖め、花飾闘の殿に宿り、月玉樓の夜を照して、不斷の春は堂に溢ち、錦繍綺羅に纏はられし身も、今はいよ〳〵せき伏屋の裡、そが起き伏しはあはれこの、狭隘なる室にてぞ辨ぜらる、かくてうの寢室兼書齋にと充られし一室は、素より何の装飾とても無く、壁上一個の肖像畫のみ、よしありげにぞ見られたり、小照!!! 果然? そは即ちマリア、ルイザの夫れなりき。

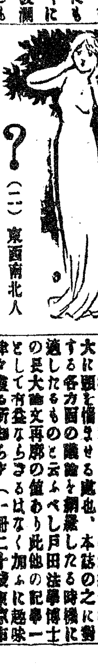
あゝ彼ナポレオンは、今や自ら運を諦り、うの天命を觀じつゝ、心靜かに野に臥して、餘命を神に委ねつゝも、松籟雨聲耳に冴ねては、眠られぬ夜もしば〳〵にて、結ぶ夢さへとぎれ〳〵に、思出多き過去を偲びつ、せめては波瀾しげき彼自身の經歷を、後の世にも傳へひとや、終りに近き世活の余暇に於て、自ら親しくマレンゴウ以來の日記を綴る時々、屢々壁上を仰ぎ見ては、花晨月夕相抱きて、儕時我が世の苦を忘れ、温かき戀身の血に波うたせ、蜜の如く甘き香に醉ひつ、情愛濃かなりし過去觀樂の夢辿りて、僅かに孤島の寂寞をぞ忘るゝなりき。

あゝ、腕に皇子をかひ抱きて、笑めるが如きその俤よ！

文苑

◎思ふ事ありて詠る長歌　加藤梅雄

もろこしの　ひぢりの教
西の國　佛の道も
昔より　いたりいたりて
基督の　つたへも今は
はびこりて　行はれども
さねごしの　榊にかけし
増鏡　これを見る事
吾を見るが　如くしませと
のたまひし　神の教は
今も猶　照かがやきて
曇なし　是を思へば
我國は　綾に尊し
外國は　綾に畏し
もろこしの　ひぢりの教
西の國　佛の道も
基督の　つたへも己が
思ふまゝ　擧ばゝ學べ
學び得て　いひ唱ふとも
擧び得て　いひ傳ふとも
ます鏡　照りかゞやける
御光は　いかでけたれむ
我國は　綾に尊し
我國は　綾に畏し
千早振　神代の昔
天照　皇大神の
かためてし　根ざしはかたし
四方の海　よせくる浪は
高くとも　吹くる風は
あらくとも　何かはあらむ
敷島や　大和島根は
動やはする



？（二）

東西南北人

ツウ〳〵結婚以前のことゝ云へば、それあなた、もう忘れなすつて、何がつて？マア驚いたこと、あなたも随分健忘性ネ、うれあなた……結婚する前の年――何とか云ふ栗の奇麗な花のたんと咲いてゐたつた日比谷の夜のベンチで……まだ憶いだせないこと？マアあきれた方ネ、ホラあなたが私に誓つたことがあるでせう、――『僕と結婚するなら其生涯は必ず幸福にしてやることを保證す』とか何んとかエラソウにれッ仰つたぢやありませんか、今幸福ぢやないかつて随分な人ネ、あなた知らないつて、うれで寛、知らないくせによくもあなたは私に『幸福なることを保證す』なんて大きなことをれッ仰られたのネ、幸福と云ふものは――抑々幸福と云ふ可きが本來だつて、うんなマゼッカヘンをれッ仰らずに默つて聞いてイラッシャイ……幸福と云ふ者は自動車、劇場、三越、白木屋、それから眞珠のチッキレース、ダイヤモンドのペンダント、夏は海岸よ、ホラ、オゾンに富んだ空氣に朝から晩までツカツてさ。うれから冬は熱海あたりの温泉よ、マア概念だけを云つたならそんなものを含蓄するものが幸福よ、イエ何ですつてそれは幸福ぢやなくつて抱腹ですつて、マアひどい人、それだからあなたは駄目な人よ、意氣地がないの子、この簡易生活の趣味が解からないかつて、あなたは一言めには簡易生活簡易生活とれ仰られるけれども簡易生活なんぞ、何が趣味があるものですか、ピヤノもなければ琴もない、元來あなた簡易生活なんて說くのは自己の貧乏に弔鐘を撞くのと等しいことよ、金剛石よりは馬鈴薯が大切だと云ふことは畢竟會席料理に飽いた時分澤庵で茶漬が食ひたいと云ふやうな時に說くべきものであつて、それを標榜するなんざア見ッともないぢやアありませんか、

◎新刊紹介

△新公論（生活難號）　生活難は今や文明國共通の難問題として學術經世家の大に頭を惱ませる處也、本誌の之に對する各方面の議論を網羅したる時機に適したるものと云ふべし戸田法學博士の長大論文再讀の値あり此他の記事一として有益ならざるはなく加ふに趣味津々たる所鮮らず（一冊二十錢東京市本郷區東片町新公論社）

△緑葉會世界（六月號）　緑葉會趣味を鼓吹せる美しき雜誌なり（東京市神田區柳原川岸永井三昇堂一冊十錢）

△ニコ〳〵（七月號）　不相變樂天主義のニコ〳〵なることゝの人生最も肝要なることを說き而かも教訓を含める有益の雜誌なり（東京新橋南金六町ニコ〳〵倶樂部一冊五錢）



召使れ初

第九十四回　黒法師

澤野一派の目論見は、お道を不義の罪に、陥れんとするにあらず、彼女に堪ゆべからざる赤恥を與へて、再び起ち難き大打撃を加へるにありき、幸に彼を屏息させたる後、慈地に進み行きて彼の目的を遂せんとするが、彼等の最初よりの手術なりき、併せて彼等の最初よりの思案なりき。

「誰ぢや」と澤野は白き眼にお察を睨みて「それから煩厭く口を出すわの」

「察でござります」とお察は騒ぎたる樣も見せず「お文を受け取つた當人の察でござります」

「陪女の出る幕ではない、引き込んで居やの」

「いゝえ、引き込んでは居られませぬ、恐れ多くも御前樣御出座、うの御前で察の不調法から旦那樣に恥辱を與かせてはなりませぬ、うのお文、篤とた見せ下さりませ、一向腑に落ちぬ事でござります」

「さ、お道どの」と澤野はお察の云ふ事を耳にもかけず「虫見たやうな聲が何處かで聞ゆる、なれど左樣なことに耳を貸す時ではない、奥向の一大事、詮議の次第、明白にせいではならぬ、先刻から訊ね申す一伍一什、眞直に仰せござりませ、このお文の文言でも知れまする、あなた樣掟を破らせて、海老屋德右衛門に御密會なされたでござりまするな」

お道は爭ひ用なしとや思ひけん、口を噤みて何事も云はざりき、お察は口惜涙をはら〳〵流して。

「澤野樣、察の申し上げる事をお聞入れござりませ、察は有體を有りまゝに申し上げるでござります」

「お上お目鑑に由つて、一足飛びに中年寄にお露りなされたお道どの、あなたの御所業は一つ〳〵奥向の龜鑑になりまする、それが其樣な……」と澤野は當にかゝつて『不義の罪過を犯させて好うござりまするか』

今まで脇息に凭らせたるまゝ、恍と澤野の爲んやうを御覽あらせたる奥方は此時徐に口を開かせて。

「澤野待ちやの」

「は」と澤野は面を柔げ「何事でござりまする」

「今讀み上げたうの手紙の、不義の證據といふたその文の、そりや誰が書いたかのう」

「御當家御用聞、町人、海老屋德兵衛倅德右衛門の筆蹟に相違ござりませぬ」

「道が認めたではないわのう」

お訊ねは再び下る、お察は息を呑みて、賴起しに澤野の返答什麼にと見る

「お道どのに宛てたものでござりまする」

「おやに依つて訊ぬる、誰が認めたでないはのう」

「仰せまでござりませぬ、自分に宛た文を自分で認める者ござりませぬ」

「要りが片口ぢや、然もうの文、廊下に落ちてあつたといふ、眞實か」

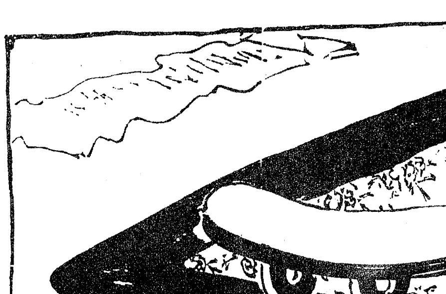
「お廊下に落ちてあつたを、澤野召使の者、圖らずも拾い上げたでござります」

「そなたその文を證據〳〵と云ふやうぢやが、私の目からは什麼の用にも立たぬ反古同然と見ゆるわの」

「思ひがけぬ、そりや何故でござりまする」

「うの文、道の手文庫の中、衣裳の袂にでも入つてあつたら、勿論證據にもなるであらうが、封のまゝお廊下で拾ふたでは、什麼の證據にもならぬわの、私の推察、これは道に怨みある者、德右衛門の名を騙つて、故意とあらぬ文言を認め、人の目に觸れるやう、お廊下に捨て置いたかも知れぬわの」

奥方一片の同情はこの詞の中に溢れたり、お察は嬉し涙、禁めかねてさめ〳〵と泣き入りぬ。



京城新報

天皇陛下の御巡幸を仰ぎ奉る

總督の奏請を望む

總督政治布かれて第一回の地方官會議及び警務部長會議は開かれ、寺内總督は地方官會議に臨み施政方針に就て縷々數萬言の訓示をなしたり、其訓示中「我が御聖なる　天皇陛下は治化を明に施くの初に當り蒼黎綏撫の意を昭にせられむが爲、刑法踏散の罪囚中情狀の憫諒すべき者に對して特に大赦を行ひ給ひたり、赦免を蒙り監獄を出でたる者孰れも無疆の洪恩に感泣して正業に就き、更に刑辟に觸れたる者稀なり、又兩班儒生の耆老にして御歯の恩典を蒙れる者は一万二千百十五人にして、孝子節婦の旌賞せられたる者三千二百九人に及び、皆悉く空前の恩澤に感激し、或は賜金を附近の罹災者又は貧民に配與して其恩を頒ち、或は賞分を教育費として郡衙に献納し、或は之を醵出して殖林桑園養蠶等の事業を起し又は德政碑を建設して、聖德を永久に紀念せむとして絶て恩賜を徒消するが如き者無きは最も喜ぶべき現象なり云々」の一節は、これ聖恩新附の黎庶に浹ひし事實を語りしものにして、誰か、陛下の大御心を拜察し奉り感涙に咽ばざるものあらむや。更に總督は訓示の末段に於て「昭代治平の良民たるに羞ざる適境に達し以て海嶽の鴻恩に酬ひ奉るべき所以を自覺せしむべし」と曰へり、誠に然り、鮮土統治の根本方針は新附の民をして、聖德鴻恩の厚けなさに報ゆるの精神を涵養せしむるにあり、如何に制度完備すと雖も、此根本方針に背馳せむか、宛かも天に達する長梯を作らんとするに似たり、統治の完美を望まんと欲するも終に徒勞に歸せむのみ、地方行政の局に當る者、能く總督の意を體し、鮮民同化に一層砥礪する所なくして可ならむや。傳聞く寺内總督は重要なる諸會議の終りし後本月中旬頃東上すべしと、想ふに總督東上に着後、直ちに宮城に參内、闕下に伏し、半島の事情を奏上せらる可し吾人は其際に當つて、總督より、畏れ多き事ながら、陛下が今秋九州の野に陸軍大演習を御統監あらせられし後御序を以て半島へ御巡幸を仰ぎ奉りたき旨奏請せられむことを、切に〳〵總督に望まむと欲す。

稽ふるに、我帝國の朝鮮に對する問題は、神代よりの大懸案にして、天祖の弟君か創業の大任に當らせ給ひし以來史上詳かに之を載せざるも、何れの御世にも絶へざる關係を保持したるは既に史家の考證によつて明かにせられ、神功皇后の三韓征伐は申すも迄もなく豐太閤の文祿役は著明なる史上の事實として何人も之を知る、而かも二千年の歷史は絶へず關係を有しながら、未だ之を完全にすることを得ざりし也、然るに國運の發展は、祖宗の武烈を亨けて、日に月に盛んにして、終に昨年合邦の實は舉げられ、千歲未決の半島は茲に八紘に洽き皇化の御澤に浴するに至り、國威は頓に揚る、如此千歲の大懸案快刀亂麻を斷つが如くに解決せられしもの、陛下御稜威の然らしむる所なれば一度び鮮土に鳳輦の轍を印せらるゝの光榮を蒙らむか、鮮衆は、神聖なる我皇の御尊容を拜し奉る鮮氏は愈々御威德の宏大無邊なるを念ひ、倍々我統治に悅服するに至らむ、寺内總督の訓示に所謂海嶽の鴻恩に酬ひ奉るべき所以を自覺せしむるもの、蓋し此に超へたるものはなけむ。

申すも畏れ多き事ながら、天皇陛下の毎に黎庶の安危を軫念めらせられ、天地に偏しき皇德を示し給ふのみならず國事多端にして御政務繁忙の中にも絶へず、國運の伸暢に叡慮を注がせ玉ふは國民の恐懼措く能はざる所也、斯くも總て大御心を寄せ給ふ、大君の御前に、寺内總督にして伏して誠忠を表はして奏請せむか、半島巡幸の事必ずや御嘉納あらせらるべしと信ず。嗚呼、外形的なる政治併合は總督の盡力に因つて既に決す、於是乎、吾人は精神的同化の基礎を大盤石に据へむが爲に、陛下の御巡幸を拜望す。吾人豈徒らに陛下の御尊厳を冒瀆し奉るものならむや。

東京電報（六日發）

▲**東北地方水害** 東北地方は連日の降雨今尚ほ止まず被害日に甚だし

▲**鹿兒島線不通** 連日の豪雨にて鹿兒島線の吉松眞幸間鐵道線路五十間陷落し不通となれり

▲**中央線の損害** 大雨の爲め汽車不通となり、中央線明科、西條間の切取斜面は高さ五十尺長さ百十尺の大龜裂を生じ頗る危險にして犀川を正に埋沒せんとし附近の民家は危險なり鐵道院にては復舊の見込立さるを以て對岸約二萬坪を買收し新たに線路を布設せん計畫なり

▲**天氣快晴**となる 連日の雨歇み天氣快晴となれり

▲**横須賀の大船渠** 横須賀に長百三十間巾四十八間深さ四十八間の大船渠建造に着手したり

▲**伊東旅閲使の歸京** 伊東海軍檢閲使は六日朝歸京す

▲**日露犯人引渡條約** 日露犯人引渡條約は今明日中に發表せらるべしと

▲**山縣樞相伏奏** 山縣樞密院議長並に小村外務大臣は樞密會議終了後　天皇陛下に拜謁し日西及日瑞條約につき伏奏する所ありたり

▲**日韓瓦斯增資** 日韓瓦斯會社は八月八日東京に於て定時株主總會を開き三百万圓の增資を爲す事に確定したり

▲**二條約御諮詢** 五日樞密院會議を開かれ山縣議長以下各顧問官出席日西及日瑞條約の御諮詢あり小村外相條約締結の經過を說明し滿場一致にて可決したり

▲**臺灣吏特別任用令** 臺灣總督府職員特別任用令中改正の件五日樞密院會議にて可決されたり

▲**遣英艦の消息** 遣英艦鞍馬、利根の兩艦は四日プリスマウスに安着の旨島村司令官より海軍省に公電ありたり

▲**木村博士の光榮** 地球地軸に對し觀測原理を發見せる木村博士に對し帝國學士院は恩賞授與式を擧行せり

▲**兩宮の御聽講** 竹田、閑院兩宮殿下は昨六日木村博士を召され地球地軸觀測原理を聽講あらせられたり

▲**東宮御旅程** 東宮殿下は來る十七日東京御出發北海道行啓に御決定相成りたるが御旅程は來る十日仰出さるべしと

▲**皇孫戰利品御覽** 三皇孫殿下は八日日比谷戰役戰利品陳列所振天府御覽の旨仰出されたり

雜報

●**總督と地方官** 寺内總督は九日各道長官を總督府會議室に召集し道長官會議に附議したる各重要問題に關し一場の注意的訓示を爲すべしと

●**長官會議終了** 道長官會議は六日を以て終了したるが七日は定例長官會議を開き道長官會議に附議したる各事項に關し各部長官互に意見の交換を爲すべしと

●**府尹會議開期** 來る十日より三日間總督府に於て開會すべき各府尹會議の第一日は寺内總督の訓示あり第二第三の兩日は諮問應答等ある筈にて世間傳ふるが如く同會期を約一週間と云ふは全く無根なりと

●**寺内總督の訓示** 五日午後三時より寺内總督は同官邸に明石司令官警務總長以下各道憲兵隊長警務部長並に憲兵司令部員警務總監部各課長を召集し訓示を與へたり

●**朝鮮皮革と内地需要** 最近に於ける我内地の皮革輸入額は一箇年約五百五十萬圓以上に達するが其内二百萬圓は朝鮮よりの移入にして尚續々增加の模樣なるがこれが爲め昨今朝鮮牛皮の清國上海市場に表はるゝもの非常に減少せしと云ふ

●**國有地の調査委員會** 京城府内に於ける國有地は目下農商工部、度支部及警務課等にて委員會を組織し夫々調査中なる京城内の調査は近々終了の上更らに城外なる龍山及北漢山方面をも精細に調査をなす筈なるが既報の如く南山方面にある國有地中過渡時代の弊として個人より所有權ありと申出しものあり何れ總督の決裁を仰ぐに至るならんと云ふ

●**朱安鹽田の竣成** 朱安天日製鹽場の增築工事約六十五町步は先日竣成したるがこれにて全部百町步の鹽田工事を竣了したるものなりと

●**土地調査の現狀**

……本年六月調查……

一時鮮人等の多くは土地調査の趣旨を解せざるを以て調査局に於ても本事業に對する各地方民の意向に對しては專ら施行趣旨の周知に努めたる結果近來漸やくにして從來不確實なりし土地所有權を保障せられ各自の福利を增進せらるべきものなるを了解し自ら進んで本事業の施行規定の手續を盡すに至れると一面外業從事員の技術漸次熟練し來り概ね豫定以上の成績を擧げ本事業進行の經過は極めて順境に進捗しつゝあるが今左に本年六月末調査局調査に係る土地調査の概要を擧ぐれば左の如し

▲**準備調査** 準備調査は道府郡面及洞里等の各疆界踏查面洞里各疆界略圖調製土地申告書の取纏、土地に關する地方慣習調査、土地に關する地方經濟調査等の業務にして實地調査其の他の調査に關する準備とす而して其の既に調査を完了したるものは仁川、大邱の二府及京畿道に於ける九郡にして目下調査中に屬するもの京畿道四郡、慶北四郡都合八郡なるが尚ほ本年度内に着手すべき豫定地方は京畿道八郡、慶北三郡、慶南九郡、忠北六郡、忠南二十九郡にして都合五十一郡なり

▲**實地調査** 實地調査は所有權調查紛爭地に關する調査概況圖の調製實地調査簿の調製收穫調査地位等級調査等の業務にして概況圖の調製は測量の基礎となり收穫及地位等級調査は土地の品等を決定し他日地租改正の標準に供せんとするに在り而して既に其の調査を終了したるものは京畿道四郡、目下調査中に屬するもの京畿、仁川府外五郡、慶北大邱府外一郡都合二府六郡なり尚ほ本年度内に着手すべき豫定地方は京畿道十二郡、慶北六郡、慶南九郡、忠北六郡、忠南二十五郡都合五十八郡なり

▲**圖根測量** 本年四月末日迄に圖根測量を完了したるものは京畿道六郡にして目下測量中に屬するものは京畿道仁川府外四郡慶北大邱府外一郡にして本年度内に着手すべき豫定地方は京畿道十一郡、忠淸南北道三十一郡慶尙南北道十五郡都合五十七郡なり

▲**細部測圖** 細部測圖の結了せしものは京畿道に三郡其の測量中に屬するものは京畿道仁川府外五郡慶北大邱府等にして尙ほ本年度内に着手すべき豫定地方は京畿道十郡慶尙南北道十六郡都合二十六郡にして其の完成豫定面積は十八萬余町步なり

●**朝鮮米穀斤量建問題** 朝鮮米穀斤量建に改正したき要望は嚮に兵庫港朝鮮米穀商組合と大阪朝鮮貿易商同業組合の連署を以て神戸商業會議所に向つて朝鮮に開會の商業會議所聯合會へ提出の希望あり神戸會議所は其意見を容れ聯合會に提議滿場一致を以て決議したるが仁川港の組合は右の意見を贊成し來十月一日より斤量建に改正し以て阪神兩組合と提携のことに決せしが右の改正は仁川港のみにては其目的を達せず朝鮮各港共同步調改正を希望する譯なれば兵庫港朝鮮米穀商組合は三日正副組長神戸商業會議所を訪ひ聯合會決議の内容を聽き取り總會の決議を以て大阪朝鮮貿易業同業組合と協議の上朝鮮各港に向つて實行方を照會する筈なりと

●**韓銀定款改正** 韓國銀行は來る八月十五日東京銀行倶樂部に於て第四回定時株主總會を開く由は既報の如くなるが同總會に引續き臨時總會を開き銀行名改稱に伴ふ定款改正の件を附議すべしと

●**總督邸晩餐會** 寺内總督は六日午後六時より來京中なる本多林學博士及下岡農務局長を官邸に招待し晩餐會を開く由

●**大觀亭晩餐會** 大久保軍司令官は七日午後七時より明石憲兵司令官、山形中佐、各憲兵隊長、太田、松村の兩副官等十餘名を大觀亭に招待し晩餐會を開かるゝ由

●**京城民會議事** 五日の京城民會は民團工事請負規則改正及道路擴張問題に付き討議したるが請負規則改正案中入札の落札方法に關し約一時間に亘り討議ありしが結局普通の入札方法と同一になすことゝなり他は委員會の修正案通り可決せり尚は道路擴張問題に關しては委員に附托し左記七氏委員に當撰せり

原勝一、山口太兵衛、皆川廣濟、中村再造、大村保太、大村百藏、古城梅溪

●**市街道路改築建議** 別項民會に於て山口太兵衛氏は議員數名の贊成を得て本町通り改築南山町四丁目より旭町、米倉町を經て南大門驛前に通ずる道路及龍山河岸より麻浦に通ずる道路改築建議案を提出し別項の如く委員附托となれり

讀む可し讀む可からず

山水道人

▽エーイと一聲やられた奴は眞ツ二つ。

▽グサと突血煙立つて哀れ早や。

▽ズドン一發鐵砲丸には辭儀が無い。

▽カプリと一匙モルヒネの。閉ぢた眼は二度とはあかぬ。

▽利刄。銃鋒。飛丸。爆藥の威や懼る可し。されど凶器は防ぐに道あり武は遂に一人の敵。

▽一揮して千萬人を殺し、剩へ上下千歳を通じて活殺するもの筆に非ずして何ぞ。文は以て萬人の。

▽否な筆の用は殺すに非ず、之を活すに有り名けて活人劍と言ふ。

▽だつて褒し…………オホホ。ろの笑靨の可愛サツたら君。

▽笑靨は淵は淺い樣で深い。大抵の男は。一度此淵に墮ちたら最後水が無いだけ浮び瀨は無い。

▽妻や女の髮毛一すじに九牛を繫ぐと云ふ位。弱い樣でも女獅子は迫はぬ。汝の名は女なり。

▽かく弱い女は男に負け。弱い男は女に負けて。風氣頽廢道義紊る。

▽併も天地陰陽の理や疑ふ可らず。人性男女の別呪ふ可らず。是天理也。其用を逆げ科を濫す是天道矣。されば强き男は女に勝ち强き女は男に勝たしめて向上の一路を進む亦方便。歐米の近狀畢覺是。之に反して。

▽妾が百年の命。郎が一夜の情けに生き損ひの不貞腐れの女ども。嫌ふ願はくば痛切なる愛を許すとだに。只一言宜はば。例へ死すとも實は死に相ひの男どが。半死半生の子を暗に粗製濫造する。是憂ふ可き日本現時の流行病。其應急手當を吾人は藤村博士の硬教育に望まざるを得ず。

時事新報社起 義勇表彰會

時事新報が來る二十日を以て號數一萬に達する紀念として同社にては義勇表彰會を起し左記規定の事業を七月二十日より實行することゝなれり

第一條　義勇表彰會は日本國民中義勇行爲を爲したる者に對し賞金及び賞牌を贈與して其行爲を表彰するを目的とす

第二條　表彰す可き義勇行爲は左の如し

一、自己の危害を顧みず一身を賭して他人の生命財產を救護したるもの

一、前項の目的を達せんとして自己の生命を失ひ又は負傷罹病したるもの

一、其他經世上并に人道上特に顯著なる行爲

第三條　表彰す可き本人の生命を失ひたる場合には其遺族に賞金を贈與す

第四條　賞與は當然の行爲に屬し且つ公私に於て賞與救恤の設あるものに就ては特に其顯著なる行爲に限り之を表彰す

第五條　義勇資金は發起者並に贊助者の寄附義金を以て之を設置す

但五百圓以上の寄附は十個年以内の年賦を以てするも差支なし

第六條　義勇資金の支出は每年凡そ一定せる金額内に於てし其殘餘金は每年之れを積立て十個年末に至り義勇資金基本金に充つるの計畫とす

第七條　本會は名譽信用ある若干名の委員を囑托し授賞者並に授賞金額は委員の審議に依て決定するものとす

因に時事新報社は表彰會評議員を左の諸氏に囑托し何れも快諾せりと

伯爵林董、豐川良平、朝吹英二、男爵澁澤榮一、森村市左衛門、福澤捨次郎等六氏

●**信用告知業取締** 總督府令第八十二號を以て信用告知業取締規則發布されたるが七月一日より施行する事となり現に興信所等の業務を營む者は本令により許可を受けたるものと見做されたり

●**朝鮮語の調査** 國分人事局長、小田川取調局事務官、男爵俞吉濬の外二氏は今回朝鮮語に關する調査を命せられたり

●**下岡局長視察** 下岡農務局長は六日午前八時宮原技師の案内にて仁川に赴き歸途龍山模範場支場を視察したり

●**下岡局長出發期** 滯京中なる下岡農務局長は八日午前九時十分南大門發平壤に向ふ由

●**本多博士の視察** 朝鮮林業調査の爲め來京せる林學博士本多靜六氏は七日出發群山、釜山を經て元山に赴き陸路京城に引返し歸東する由

●**大貨物運賃割戻廢止** 四十一年四月より以來實施しつゝある鐵道院線と朝鮮鐵道との連絡大貨物運賃の割戻は八月末日限り全然之を廢止する事に決定せりと云ふ

●**天祖教會と敬義會** 京城中部寺洞なる神宮敬義會にては去る二日東小門内北廟に會員百餘名集合し神宮教と合併して天祖教會と改稱し布教する事に決せり

●**故中大路氏の告別祭** 故中大路氏の本葬は鄕里京都にて行ふため來る八日午後正三時より京畿道廳宣化堂に於て告別祭を行ふ由

●**仁川水路視察** 岩崎仁川民長は秋田氏其他數名の有志と共に來る八日稅關のランチに乘じ仁川龍山間の流域視察を爲す可しと云ふ

公人私人

△野口弘毅（前釜山一銀支店長）五日入京天眞樓へ

△金谷三男（陸軍二等軍醫）同旭旅館

△水谷千萬吉（海軍大佐）同浦尾へ

△望月瀧三（血精製造所長）入京中の處六日太田へ

△二宮熊二郎（京華日報社）長同釜山へ

仁川港出入船舶

七日

▲香取丸　鎭南浦より入港

▲木浦丸　同　大阪へ向出港

▲汕頭丸　同　長崎へ向出港

▲京城手形交換高▼

七月	金高	枚數
六日	一九八、四八一、八〇〇	六〇〇

▲茶袋▼

各銀行や諸會社本年度上半季決算も大抵は濟んだヨウだ、中に韓銀が前年度の下半季に比して純益金三萬五千餘圓をヨリ多く收め得たとはオメデタイ事だ▲併し或人の曰く韓銀の利益と云ふのは其正味の點は紙幣の發行にあつて、而して其發行紙幣なるものは譯を換へて云へば無利子預金なのだ、アー無利子預金幾千萬圓を有し、并を普通八朱以上に貸出し、半季に七万圓位を儲けたからつて何の不思議もない▲今は一銀の副支配人なる前釜山商業會議所會頭野口弘毅は今度其藏書の全部を釜山圖書館へ寄附し、亦た木内農商工部長官も最近に於て其藏書中の五百部を京城圖書室へ寄附したソウだ、思ふに讀古るした書物でも圖書館へ出せば有効になるのだ、ドーか一般の人士が野口、木内に傚ふ樣にシタイ▲此頃群山や釜山で米の浦汐仕向けを大々的に計畫して居る者があるとの事だが、失敗に了らねばヨイが、何ぞなれば浦汐は元は朝鮮米特に馬山米を入れたものだが、今では直に良くて安いラングン米を入れる樣になつたからだ▲總督府大小の役人共が亦た青息になつた、ソレは近々官制改革の結果大淘汰があるダローとの噂が高いからだ。

藝妓健康診斷の議と各方面の意見

藝妓に健康診斷を受けさせると云ふ議が傳はつて以來其の御の恐慌と云つたら凄ましいものだ、無理だ人權蹂躙だなぞと憤慨するもの、身に覺へがあるから受けても宜しいけど軍醫さんぢやア堪らないつて新町の娼妓さんですら檢査と云ふと傑へて御座る、まして初めて出會す妾連は恐いと云ふもの怖氣々々である、從つてでげす從つて局外者にして而して深い關係のある客筋の中にも賛否の論がある、此の時に際りて之れを紹介することゝ豈に無益の業ならんやでしよう

井門本店の奴事 山田秀子

オヤれ久しう、ビロングアーニー、チイナイキイシロ、エ印度語かつて仰云るの、マー貴方も隨分ウツツリですね、一体全體此地を何處だと思召して、朝鮮ですつて夫れでも厭心能く覺へて被在いましたね、彼れは朝鮮語の『御機嫌宜しう御座いますか』と云ふのです、よ苟くも身朝鮮の粟を食むものは此の位の事を知らないで何うしますかよ況んや新聞記者たる貴方に於てオヤ／＼チョイ／＼は稽古を爲さいよ、アー草臥れた喋舌のも骨の折れるものですねエ眞面目の話しがある、承りましようアレですか**アレは不都合**です健康診斷だなんて云つても取りも直さず檢黴でしよう馬鹿／＼しいワ賛成も不賛成もありません其樣ことの**有る可き筈が無い問題**ですもの、假りにも異にもある可き筈がありませんよ、朝鮮も日本ですよ、日本の何所に藝妓に健康診斷を行る處が在りて、若しか**日本**で其樣事を爲るとなつて御覽なさい國會議員さんや何んかゞ默つて居ませんよ、默つて居ようと思つても藝妓衆が承知しません旦那方を煽動して**國會の問題**にしますよ、**京城**には其樣風を持つた姐さんは無いから人權問題を振り翳して、何う斯うと云ふ道が無いから結局は**樂屋辨慶**、陰でワイワイ芝居のお祭りです、茲に只一つ杖とも柱とも頼むのは記者樣方のお力で何うかねエ、と急いで記者の下へ襟を附けて覗いて曰く、藝妓に健康診斷を行ふ程なら**第一種第二種と區別の必要は無い**ぢやありませんか夫れに藝妓は如何な場合に如何な事を爲る稼業柄のものかと云へば宴席に出まして客樣方の興を扶けるのが本職でしよう、世間の皆樣は藝妓は悉な情を賣るもの〻如に風聽なさるが夫れや間違ひです、**例外**を云へば貴方**懲治監の看守**さんにも**盜賊の張本**が出る世の中ですよ中には情を賣る人も有りませうが憚りながら私達は斷じて其樣事は無いのです内地に居つた時分十八九から二十一二迄隨分情人も持つて居ましたが只今では夢にもよ、**私娼を爲る妓**は夫れ相當な處分をされても文句は無いでしようからドシ／＼**檢擧**なすつて何處の料理屋で何んと云ふ藝妓を擧げたと云ふことを新聞に出して而して**營業停止でも禁止**でもなしたら宜しいではないですか京城に泥棒が居るからつて京城中の人間を殘らず引つ張り出すと云つた如な考へは確かに間違つてますよ、併し昔も今も變らない泣く兒と地頭にや勝れない何うでも衛生警察法に依り**本職**は**職權**を以つて、なんて物騒な事になれば**私は廢業**します、誰れが貴方朝鮮迄來て居る者で身体を大切にせぬ人がありますか少し心地が惡くても醫者樣にかゝつて藥を頂いて居りますもの其處迄の指圖は恐れ入ります、とは申しますが此の問題は噂だけで事實と成るとは信じませんから安心して居ますが一体貴方は賛成ですか不賛成ですか、エッ**大賛成**ですつて、マア**憎**らしい

子を有つ親に注意

大人と云はず小兒と云はず戯れ事によりて他目には頗る危な氣に見ゆてさして危ふからぬ遊び事と極めて何氣なき事にて却つて不慮の災害を崇ることとあり我見る處に依れば世の父兄は高きに登り或は綱を渡る子弟を見て極めて危うき事に思ひて之れを止むることを怠らざれど道路を行く時の右を顧左を眄する所謂放心狀態時の如き襖、戸障子、閾を排く時の如き前方に何者の在るべきや測り知るべからざる時に處する注意を與ふるに餘りに不注意なるを感ずると馬鹿に固くなつて報道するのは他でもない、五日午後四時頃**大和町二丁目**の見わる鮮人洗濯屋の**闇い板の節穴**に六才位なる一人の小兒の**眼を押し當て**て何心なく構内を覗かんとしたる途端アッと叫んで打ち倒れたるが左の眼より夥しく出血せるに驚きたる附近の者駆け寄り抱き起し斯く／＼と小兒の父なる同町二十四番地に住する花井與三郎氏方に通じ直に醫師の手當を受けしむると同時に一方其の原因を取り調べしに同人の節穴に眼を押し當てしを見たる同家の息子(鮮人)某が驚かさんと思ひて竹片を持つて**内部**より突きたるものが運惡しくも其の瞳を**突き貫**しゝにて彼れは意外の出來事に驚駭して山手に逃け去りたるを其の兩親して取押へ示談したりと聞けり心すべき事也

七夕

安田雨村

露ちりて
笹の葉末に吹く風に
歌をたひけし短冊の
ゆりて凉しき夕かな。
さりながら、情なき
君にはやはか見ゆべしや
笹の葉末に吹く風に
ちる露、露かつ散れど
君にはやはか。

雲もなく
澄みて天路の秋の色
天の川原による波や
やは音や戀のささやきや
さながら見ゆる彦星の
顔かゞやきの姿かな
(和魂ゆらぎ—さはあれど
情の盲目—君なれば
君にはやはか)

夢なれば
一夜は花の細路より
君が手はとれ胸はまけ
やがてはそこに赫耀の
光明の國や永久なる
惠みの幸に醉はめとて
大み慈悲を思ひては
わが魂のゆらぎしを
君にはやはか。

七夕や
みうらを包む七花の
戀の光明に照らされて
うのかくはしき讃ふるも
君にむなしき思ひかや
わかれわかれの夢の路
あだにのみこそ—七夕の
うれゆゑのみに、我がなやみ
君にはやはか。

●大角力東京發

……七日夜着釜……

東京大角力横綱太刀山、大關國見山一行は五日午前九時新橋出發渡鮮の途に就きたり一行は七日午後八時着の連絡船にて釜山に到着すべしと

●掬翠樓の敗訴

掬翠樓主貴田ヨウが民事被告人として訴へられ爭訴の結果敗訴せしを聞くに原告人は山口縣佐波郡防府町三田尻字新道千二百十九番地大工職峰藏助二郎にして訴名は貸掛代金並に荷造料請求事件と云ひ原因は掬翠樓新築の際四十二年二月頃より四月迄に新調したる襖の骨及椽代金百八十九圓七十錢に原告が請負即時手付金として金二十圓を受取り新調の上荷造りして被告に送品したる代金及荷造料を請求するも支拂はざる爲めに起りたる訴訟にして被告の主張は增野仁作なるものに襖の新調を依頼したれば原告に曰增野より骨及椽を依頼したるものにて被告は增野に全部支拂したるを以て原告の請求に應せぬ旨申立てたるも原告に於て新調依頼受けし立證を爲し被告は何等立證なき爲め喜頭判事の審理の末敗訴したり

●看守の收賄

平壤監獄在勤の看守田元鶴外一名は囚人金臺憲なる者が家族と書簡を往復する場合に便宜を與へ二回に金二十五圓を收賄したる形跡ありと云ふ

●赤痢病發生

北部三清洞四統十九戸李慶植方同居李昇柱(三)は赤痢病に罹り治療中

●姫野醫院の開業 醫學得業士姫野幸次は是れ迄内地に於て小兒科内科を多年專攻されしが今回京城櫻井町に開業し專門の科目に付一般診察に從事せらるゝ由

●股を出して五十錢 太平町一丁目八十四番戸梶川種次郎方鍛冶職福岡縣人小田村熊次郎(二三)は五日午後一時四十分頃大貞洞派出所前に於て股部を露し自轉車に乘り西部署に告發され科料金五十錢に即決

●笞二十を盛らせらる 北部乗幌社正[illegible]息(三三)は四日午後八時半頃南部水門洞六統九戸酒幕姜方に到り泥醉して暴行を働き警官の制止に服せずして告發されて南部署に於て笞二十に處せらる

●遺失物 ニッケル片側懐中時計一個鳥打帽子一の遺失物あり遺失者は龍山憲兵分隊へ屆出づべしと

●取消 貴紙七百廿一號紙上に豆泥棒の[illegible]落ちと題して御掲載相成候小生の身上に關する件は事實と相違の點有之候に付何卒御取消し被下度願上候
明治四十四年七月五日 仁川港寺町二丁目 三浦正夫
京城新報社御中

●釜山初日の取組

來る八日より晴天三日間興業の豫定なる東京大角力釜山初日の取組左の如し

敷島(勝田嶽) 玉の川(小野ヶ崎)
入ッ房(海山) 金の花(大崎)
寒玉子(陣立) 上ヶ汐(有明)
太刀の音(大蛇潟) 鋭川(鐵甲)
平の石(伊勢濱) 十州山(太刀山)
鳳瀬川(五十嵐) 國見山(鳳凰)

●演藝だより

●歌舞伎座 お馴染の新派劇界の達者木村猛夫一行は昨春御贔負を受けたる顔觸れに[illegible]數名を加へ七日當地乘込み八日初日を出すべし尚は觀客待遇法改良の一として場内に數個の煽風器を配置する由なり

●浪花館 合併演藝會一行の落語音曲[illegible]



▲近頃京城内朝鮮人の設立せる怪しげなる二三の會社中既に解散を命ぜられたる會社ある事は讀者の知了せらるゝ處ならん茲に南大門外の水陸運輸合資會社の社長並に會計主任の二人は不正行爲ありしため先般其筋へ拘引せられ目下監獄住ひの由なるが本日の毎日申報公告欄を見るに右會社は某所支店云々と僭稱し世人を眩惑化し居るならず別欄に於て濫に社名を變更した新會社長を變更せし杯と左も得意として公告なし居るが右は取りも直さず會社令施行規則第三條の規定を無したる行動にはあらずや所管の農商工部に御尋ね致します(世話燒き)▲寧耳生よ年甲斐もなく毫碌しては困る公務と私事と位分らないで役所に出居れると思ふかい他人が上位の人を受けがよいとて僻根性を起し他人を僞せんとするも他人は君の言を信ずるものはなからふ君も今少しく度量を大きくもて(無名氏)▲金民生君初めの約束よりは伸びて然かも當地の何處に居るか分明ならず同一事を繰返しては興味索然、運筆に任せて憚る所なき形容等憚る可きもののあるを以て見合せた宅迄の御送附を見ざれば御返答は嫌ひを憾む(緑)▲東西南北人君、一文は男子向のを書いて呉れ玉ねよ氣が向かなければ何でも歡[illegible]る人)▲五日午後五時西門[illegible]西門組と云ふ人力車宿から[illegible]つて西大門の方から[illegible]つて又西門組の俥を引き返させ[illegible]賃金として只の十五錢を[illegible]が如く恣を晦した思ふに西[illegible]だらうアー云ふのにけ即決[illegible]て差支へないナ(見て居た人)[illegible]聞くと急に膽が減る如な氣[illegible]う云うもんですかね(何生)[illegible](空氣)がウゴクからだ(小僧)[illegible]院に病氣女郎を收容すると[illegible]で拜見しましたが實は嘘だ[illegible]りました甚だ失禮でしたが[illegible]日私の知人が申すには疑[illegible]も眞實で既に十七八人收容[illegible]と、之を聞いた私は茲に絶[illegible]まの御說に賛成を表し筆硯[illegible]ならんことを祈つて居るて[illegible]げます(エム、シー生)▲冬[illegible]近來の暑さは御互に恐れ入[illegible]知の通り朝鮮は夜に入りて[illegible]しむる殊に南山公園から濟[illegible]り夜の涼を貪すれば眞に天[illegible]ぶかの感を起さしむるを得[illegible]ら例年の通り南山公園の音[illegible]軍樂隊の音樂が催さるゝ樂[illegible]趣きを加ふるであらう、此[illegible]界の蓋物でも宗づとして[illegible]たならば其れこう仙境に遊[illegible]啓しからうかゝる滿足を得[illegible]本願寺の境内位に夏の間[illegible]主として夜店でも催した[illegible]